

# 水面利用者のための河川案内板設置検討について（中間報告）

A study on the provision of river information boards for water surface users (interim report)

研究第三部 主任研究員 市川 義隆  
研究第三部 部長 大嶋 吉雄

近年、荒川・隅田川では余暇を船で楽しみたいというニーズが高く、水上バス利用などの水面利用者は年間約200万人以上にものぼる。しかし、舟航の便を図るには、橋梁や水門、流入支川等目の前にある建造物の情報や現在地を知る情報が不足している状況にある。

既に設置された案内板等についても水面利用者からの見やすさ、統一性に欠けており、質の高い情報サービスを提供する努力が求められている。

本検討は、水上バスなどの水面利用者を対象に、荒川・隅田川の主な施設（橋、水門など）の情報、周辺の地理情報や歴史に関する情報及びその提供の体系化を図るものとして、河川案内板の企画、配置、デザインを検討することを中心に情報の効果的な提供方法について検討を行うものである。

本年度は現況調査及び河川案内板設置における課題について検討した。今後の検討の際の留意点もふくめ中間報告を行う。

**キーワード：河川案内板、舟運、情報伝達、デザイン**

Pleasure boating needs on the Ara and Sumida rivers are high, and the number of water surface users including the users of water buses exceeds two million. However, information on nearby structures and features such as bridges, water gates and tributary rivers and information needed to determine one's present location are in short supply.

Because existing information boards are not clearly visible from water surface users and lack consistency, there are growing calls for greater efforts to provide information of higher quality.

The purpose of this study is to determine methods for providing information effectively, mainly by considering the planning, layout and design of river information boards as a means of systematizing information on the principal facilities (e.g., bridges, water gates) and on local geography and history to be provided to water surface users.

This year, the present conditions were investigated, and problems to be addressed in connection with the provision of river information boards were studied. This paper is an interim report that also includes considerations for further study.

**Key words : river information board, navigation, communication of information, design**

## 1. はじめに

平成15年3月に開催された第3回世界水フォーラムにおいて「内陸水運」（日本における「河川舟運」）がメインテーマの1つに選ばれた。このように、近年レジャー・防災・環境などの面より河川舟運が見なおされている。特に荒川・隅田川では観光目的の水上バスの人気が高く、多くの人々が利用している。荒川では円滑な河川舟運を促すため、船舶の交通ルールである「荒川における船舶の通航方法」（H13.4月）が定められた。これにより船舶の通航方法の原則及び“動力船通航禁止区域”や“減速区域”などが設定され、これらの区域や通航方法を示すための案内板が設置されている。

しかし、水上バスの一般乗客にとっては通航のルールより現在、自分の乗った舟（水上バス）が「何処を通過しているか。」「外に見える建物はなにか。」「あの古い橋、建物はどんな歴史をもっているのか。」などの情報を期待している。現状においても船内アナウンス、乗船パンフレットなどが用意されているが、我々土木・建築の技術者が誇るべき多くの施設、水の都であった江戸を偲ばせる景色などに関する情報が不足していると感じる。

本検討は、水上バスの乗船客、水辺を散策する人々からの視点・ニーズを考慮して河川に設置する案内板・看板（以下、河川案内板とする）を中心にした効果的な情報伝達手法について検討するものであり、モデルケースとして荒川・隅田川を対象に2ヶ年にわたって実施する予定である。

〈検討範囲〉

荒川：河口～秋ヶ瀬取水堰（40.0km）

隅田川：河口～岩淵水門（23.5km）

新河岸川：岩淵水門～小豆沢発着場（3.4km）

## 2. 河川案内板設置の現状

### 2-1 荒川・隅田川の舟運の利用状況

荒川・隅田川の水上バス利用状況及び物流の状況を

表-1 水上バス利用者（平成12年実績 国土交通省）

河川	運航区間	年間利用者数
隅田川	浅草～日の出棧橋等	218万人
隅田川 荒川	両国～葛西臨海公園	9万人

表-2 物資輸送状況（平成12年実績国土交通省）

河川	運航区間	運搬物資	輸送量等
荒川	京浜・千葉地区～埼玉県和光市	石油類	80万トン
荒川	京浜・千葉区間～埼玉県朝霞市	石油類	50万トン
隅田川 新河岸川	千葉県君津市～東京都板橋区	製鉄製品	8.9万トン
隅田川 神田川	尾竹橋・堀船・三崎～中央防波堤処分場	不燃ゴミ	9万トン



写真-1 水上バス

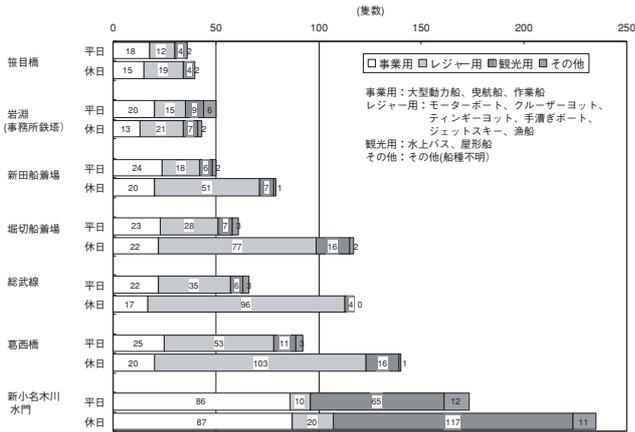


写真-2 石油タンカー

表-1、表-2に示す。

表-1、2より荒川・隅田川の水上バス、物流の概要が把握できる。特に水上バスについては浅草～日の出棧橋等において年間200万人以上の利用者がみられる。

表-3に平成14年度河川舟運の通航量調査の結果を示す。結果より通航量のうち観光・レクリエーションによる船舶利用が全体の約70%となることがわかり荒川・隅田川の水面利用状況が把握できる。（観光・レクリエーション 図-3中■及び■の部分）



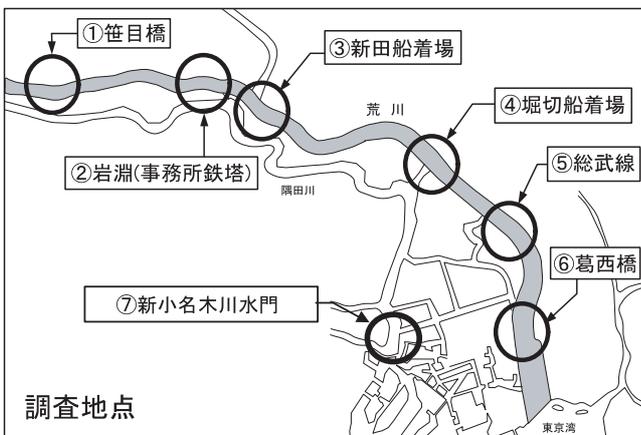
このうち、ほとんど全ての橋梁の主に橋桁部に橋名が明示してあるが、明示方法が様々で一般に舟から確認しづらい。(写真-3、4)



写真-3 蔵前橋 (隅田川)



写真-4 西新井橋と河川通航標識 (荒川)



○平成14年9月～10月の平日(9日)及び休日(5日)の14日間調査  
 ○平日及び休日の各通航量は、観測期間内の平均通航量  
 ○⑦は平成13年8月調査

図-3 平成14年度 通航量調査 (国土交通省)

### 2-2 荒川・隅田川の案内施設状況

河川案内板を設置する対象として橋梁、支川の合流部、水門、水上バス発着場などが主に考えられる。

検討区間において上述のような案内対象施設の状況について調査した結果次に示す。

案内対象施設	
荒川	橋梁 道路橋：22ヶ所 鉄道橋：12ヶ所
隅田川	橋梁 道路橋：31ヶ所 鉄道橋：6ヶ所
	水上バス発着場：24ヶ所
	リバーステーション：8ヶ所
	河川合流点：(荒川13、隅田川13)
	水門：(荒川13、隅田川8)
	その他 水辺テラスなど



写真-5 神田川合流点 (隅田川)



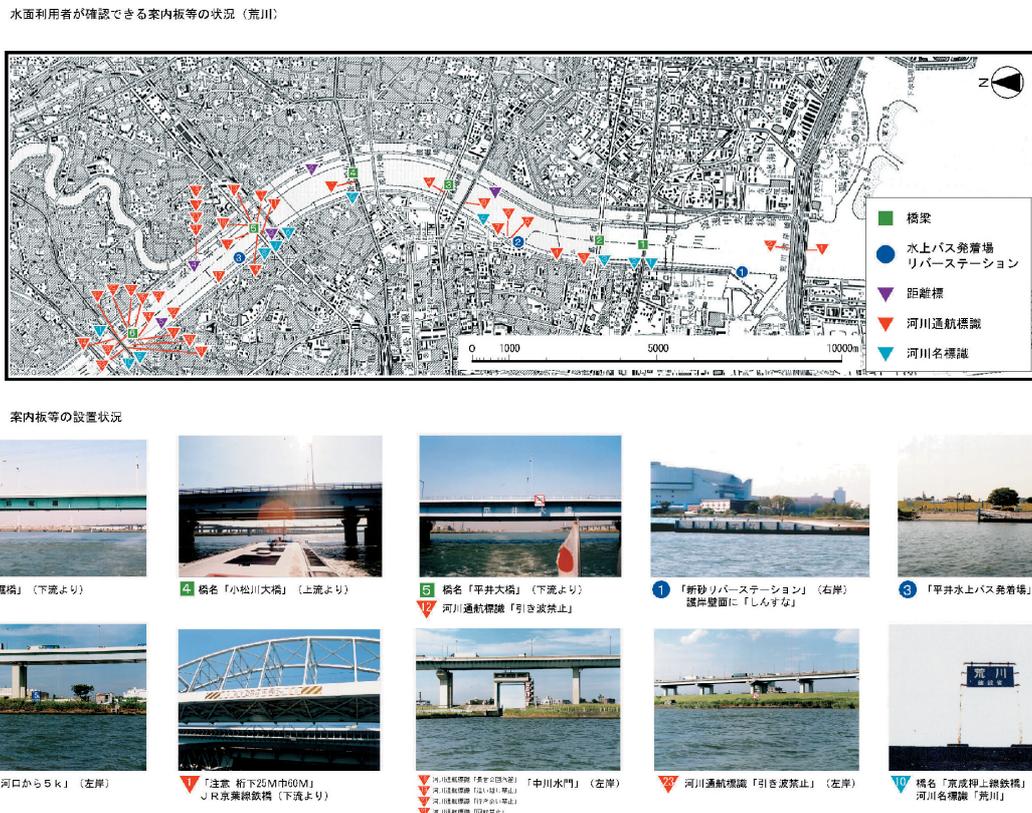
写真-6 月島川水門 (隅田川)

また、現状案内板の情報内容としては施設名程度であり、船内アナウンス・パンフレット等で限られた施設の概要が情報として与えられる。隅田川の橋梁群、著名な建物等歴史性、地域性の高い施設は必要に応じ

て、より詳細な情報を与える事も考慮する必要がある。荒川及び隅田川における現状案内板の平面配置を図-1、2に示す。  
 図に示すように、現状では河川案内板として、河川名、

河川交通標識、距離標等がほとんどであり、他の施設を紹介する案内板は非常に少ない。また、荒川と隅田川とでは河川規模が異なるため対岸よりの案内板の見え方が大きく異なる。

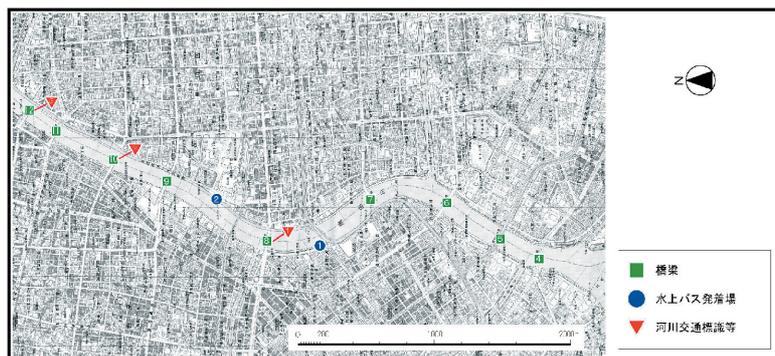
図-1



5

図-2

水面利用者が確認できる案内板等の状況（隅田川）

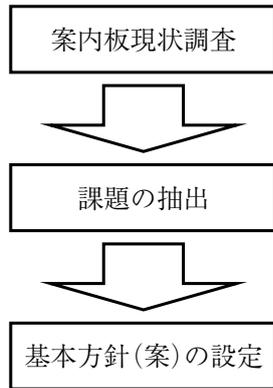


5

### 3. 河川案内板設置における課題および対応方針

荒川・隅田川における河川舟運の利用状況及び現状の案内板等設置状況の調査結果より河川案内板を設置する際の課題を抽出、その対応方針を示す。そのうえで河川案内板設置の『基本方針（案）』を整理した。

【河川案内板設置検討基本方針（案）の設定】



#### 3-1 河川案内板設置における課題

河川案内板現状調査結果をふまえて課題を抽出する。

①だれもが利用可能な案内情報が提示できていない。

案内板の対象者は水上バスを中心とする舟運利用者のみでなく水辺散策などの水辺利用者も対象とすべきである。同時に、弱視者などにも配慮が必要である。

②情報不足。

施設情報、位置情報、水位、水温、流速などの体験情報、歴史情報、地理情報など水面利用者の多様なニーズに対応できていない。

③わかりづらい。

設置された案内板の大きさ、色、情報提供手法等に統一感がない。また、走行中の水上バス等からの視認性などへの配慮がない。

④河川への配慮が足りない。

荒川・隅田川の河川規模及び周辺背景等についてはそれぞれ異なるが、それに配慮した河川案内板となっていない。

#### 3-2 基本方針（案）の設定

河川案内板設置検討に際して整理された課題への対応として、河川案内板設置検討の基本的方針（案）を以下のように設定した。

##### 基本方針. 1

##### 総合的な情報提供システム

水面利用者が求める様々な情報について体系化し、わかりやすく提示する情報提供システムを検討する。

船内アナウンス、パンフレット等他の情報媒体との連携についても考慮し総合的に情報提供を行う。

※河川案内板が伝えるべき情報種別は、記名（例：施設名称他：〇〇川、〇〇橋など）、誘導（例：河口より〇〇km、これより〇〇橋梁群など）、案内（例：広域地図での現在位置、旧〇〇運河跡など）、説明（例：水上バス運航時間、〇〇開門操作規則など）、規制（例：遊泳禁止、通航標識など）に大別できる。

1つの案内板で複数の種別の情報を伝達できるので総合的な情報提供システム検討が必要である。

（案内板システムのイメージを図-3に示す。）

##### 基本方針. 2

##### 統一されたデザイン

総合的な情報提供システムに基づき、水面利用者が効果的に情報を得られるような統一されたデザインとする。

##### 基本方針. 3

##### 河川景観への配慮

河川スケール、背景の街並み、自然など河川の風景に配慮する。

##### 基本方針. 4

##### 誰もが利用可能なユニバーサルデザイン

水辺利用者、水上バス利用者など様々な利用者についてアナウンス・パンフレットとの連携により、だれもが利用可能なものとする。

##### 基本方針. 5

##### 地理・歴史に関する情報の提供

歴史的に価値のある施設や場所の情報、水面利用者にとってニーズの高い周辺地域の情報など広く発信し河川案内板による情報提供システムの活用を促す。

### 4. 今後の検討における留意点

設定された基本方針（案）より荒川・隅田川の河川案内板設置計画（案）の検討を行う。

検討の実施に際して留意すべき点について述べる。

○河川案内板設置にあたっては「情報の内容」、「表現手法」の他「空間上の位置」に留意する。これは平面的配置のみでなく立体的ロケーション及びくり返し設置する場合は、その間隔等への配慮も含む。当然、洪水の影響、安全性、視認性についても配慮する。

○河川案内板と都市の案内板との連続的關係性に配慮

する。案内板利用者にとっては河川、都市、どちらも同じ情報であるが、各々で大きく異なる情報提供システムとした場合利用者の利便性を損なうことになりやすい。河川とその周辺部についてはできるだけ連続的な関係性を保つことが望ましい。

○案内板等で提示する情報は設置後も管理・更新する事が望ましい。民間の広告への対応（無秩序な民間広告により河川案内板による情報伝達効果が減じる事等への対応）、情報ディスプレイ等を利用した情報の伝達、更新についての提案など管理、運営面での検討が必要となる。

### 5. おわりに

本検討は水上バス乗船客等の水面利用者が望む様々な情報について河川案内板というツールを使って提供するという新しい試みである。今後の検討にあたっては有識者、河川・道路等管理者、水上バス事業者市民団体などの方々の意見を伺いながら進めていく予定で

ある。

最後に、本検討を行うにあたりましてご指導・ご助言をいただきました国土交通省荒川下流河川事務所、東京大学工学部景観研究室の皆様にご礼申し上げます。

### <参考文献>

- 1) (財) 交通エコロジー・モビリティ発行：  
公共交通機関旅客施設のサインシステムガイドブック、大成出版、2002
- 2) (財) 交通エコロジー・モビリティ編著、発行：  
交通拠点のサインシステム計画ガイドブック、1998
- 3) 国土交通省 荒川上流、下流河川事務所発行：  
荒川通航ガイド（パンフレット）、2001
- 4) (財) 交通エコロジー・モビリティ発行：  
ひと目でわかるシンボルデザイン、2001

ここで、河川案内板のサインシステムについて表にまとめます。  
対象区間は、隅田川（両国橋～吾妻橋間）です。

サインの種類	記名サイン	誘導サイン	案内サイン	規制サイン
サインの内容	浅草 Asakusa 一橋橋 両国橋	浅草 Asakusa 一橋橋 両国橋	只今の水位 ↑ ↓ 只今の気温 +0.0 0.0℃	二重線 禁止
案内対象	隅田公園 Sumida Park 吾妻橋 Azuma-bashi 1971 隅田川 Sumida river	隅田川 Sumida river 東京湾から7.5km		禁止
隅田公園				
水上バス乗り場 【浅草】				
吾妻橋				
駒形橋				
厩橋				
蔵前橋				
水上バス乗り場 【両国】				
両国国技館				
JR総武線鉄道橋				
神田川				
両国橋				

**備考欄**

- 案内パンフレットによって、案内対象の詳しい情報を提供する。
- 記名サインのうち、「橋梁名」や「著名な建物」については、案内パンフレットと連動したシステムを取り、橋本体の美観や河川景観を損わないように配慮して設置を行う。
- 記名・誘導サインのうち、「河川名称」「距離」は一定間隔及び統一したデザインで設置。
- 規制サインは現状のものを合わせて用いるようにする。新たに設置する場合は統一したデザインで行う。

図-3 案内板システムのイメージ